

あべともこニュース

命に寄り添い、平和を誓う。

◆8月15日、敗北から学ぶもの

今年の8月15日も千鳥ヶ淵に。日蓮宗の戦没者慰霊法要式典に参列、昭和34年に千鳥ヶ淵墓苑が建てられてから、毎年供養の法要を続け、今年は66回目とのこと。戦後の日本社会では、先の大戦で命を落とし、名も分かんなくなり、迎える家族もない、ご遺骨となられた三十七万人余がここに眠る事が忘れ去られています。

正午からは、平和フォーラム主催「戦争犠牲者追悼、平和を誓う8.15集会」に参列、また同時刻に行われている大韓民国国民主催の光復節記念式典でも祝辞を述べました。310万余の戦没者を始め、大きな犠牲を払って迎えた終戦のその日は、朝鮮半島にとっては侵略者大日本帝国からの解放の日、まさにお祝いの日となっています。犠牲となられた方々の無念の思いを決して忘れることなく、加害の歴史を直視して、地域の安定と平和、ひいては世界の平和を築く努力を改めて誓いました。(裏面に掲載)



衆議院議員あべともこ
プロフィール

神奈川県12区(藤沢市・寒川町) 当選8回、東京大学医学部卒業、小児科医、あべともここどもクリニック(湘南台)理事長 現在、厚生労働委員会 原子力問題調査特別委員会委員



あべともこ
公式X (旧Twitter)
@abe_tomoko

https://twitter.com/abe_tomoko



あべともこ事務所
公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ

検索



◆ミネラルウォーターからもPFAS

各地で汚染が発覚しているPFAS。千葉鎌ヶ谷や岡山吉備中央では、自治体による血液検査が実施されようとしており、国主体の対策は待ったなしです。

一方、高濃度汚染されていたペットボトルのミネラルウォーターが1年以上も販売されていました。これは、兵庫明石市議の情報公開請求で明らかになったことですが、厚生省が2022年12月に「神戸市内で製造するペットボトルを検査したところ、PFASが1リットル中、57.6ng検出されました」と神戸市に連絡を入れていました。当時は、問題の深刻さが受け止められていなかったのですが、最高で商品のペットボトルからは100ng、原水となる地下水からは最高310ngが検出されたといわれています。

これを受けての市民等の調査では高い濃度は見つかっていませんが、国内でのミネラルウォーターの規制値はありません。曝露から守る対策は多岐に渡って継続していかねばなりません。

◆山梨県石和の産後ケアセンターに

出産後の母子の為に産後ケア事業は、この数年子ども子育て支援の重要政策と言われるようになりましたが、元々は2015年に妊娠に伴う問題を抱える特定妊婦等の産後サポート事業として開始されました。山梨県では県下の27自治体との協議会を作り、健康科学大学に委託して、翌年からこの事業をスタート、全国でも画期的な取り組みで、私も何回か訪問しています。

一方、東京都世田谷区でも早くから産後ケア事業に取り組みされましたが、高齢出産や、核家族が多くなると孤立した育児がもたらした現代では、妊産婦さんの誰もが心身のサポートを必要としている、と考えられるようになって、母子保健法の改正を経て、今では誰でも利用できる人気のユニバーサルサービスになっています。

山梨県石和は温泉地で、ケアセンターでの宿泊はゆったり温泉付き、お食事もお母さんのレスパイトや子育て相談、そしてパパ講座もあり、子育てに役立ててほしいと思います。



19(月)山梨健康科学大学産前産後ケアセンター「ママの里」にて

三度戦争への道を歩まぬ決意（平和を誓う 8.15 集会）

フォーラム平和、人権、環境にお集まりの皆様と迎える79回目の終戦の日、ここ千鳥ヶ淵墓苑での戦没者追悼、恒久平和を誓う式典となりました。立憲民主党として泉健太代表からの決して戦争を起こさせない決意と、皆様とご一緒にしっかりと平和構築に取り組んでいく覚悟を冒頭お伝え致します。

第二次世界大戦での我が国の降伏即ちポツダム宣言を8月14日に受諾し、翌日玉音放送として広く日本国民に伝えられた裕仁天皇の終戦宣言を、この墓苑に眠る海外戦没者の皆さんは聞くことはありませんでした。

遠い異国の地に送られ、只ひたすら戦い、飢えや病に倒れていかれたであろうみなさんのことを思う時、せめて一日も早いご帰還と、また二度と再び戦争犠牲者を生み出さない責務が、国にも、また戦後の憲法の下で主権者となった国民一人一人にもあると思います。

同時に国際社会も、何千万人という死者を生んだ第二次世界大戦に学び、国際連合の元、戦争を回避する努力を重ねて来たはずで

しかし2022年2月、ロシアによるウクライナ侵攻や、さらに遡れば2003年の米国によるイラク攻撃は、主権国家に対しての武力による現状変更を、米、露の二大国が自ら行う愚挙でした。そして国連への信頼を大きく損ねる事となったと思います。

加えて第二次世界大戦直後の国連でのパレスチナ分割決議、パレスチナの地にイスラエルと二つの国家を作るという取り決めは、今日に至るも実現せず、昨年10月7日のハマスのイスラエル急襲を生みました。これに対し自衛権を掲げるイスラエルは、パレスチナガザ地区でのジェノサイド、子ども達の墓場と呼ばれる大量殺戮に及び、さらに戦禍が拡大し第五次中東戦争の懸念すら生じています。

他方、2年以上の戦闘の続くウクライナでは、死者数が出生数の三倍以上となり、著しい人口減少が深刻化しています。

更に地球温暖化の中、戦争こそ最大の環境破壊であるのに、停戦合意は困難を極めて

北東アジアでは、「台湾有事」が煽られ、核軍拡が懸念されています。そんな中、今年の広島、長崎での原爆犠牲者追悼、平和記念式典への出席を巡り、被爆者への謝罪や死者への追悼よりも、国家の主義、主張を振りかざして、参列を見送ったのはG7の国々でした。核の週末時計は九十秒をきり、核の配備や使用を仄めかす国々があるにもかかわらずです。

原爆投下こそ非戦闘員を含めたホロコーストであり、その悲惨は筆舌に尽くし難く、三度使用させてはなりません。それは人類に対する責任でもあるはずで

戦争による全ての犠牲者、ここ千鳥ヶ淵に眠る命も名前すらも奪われた戦没者を始め、三百十万余の日本の戦没者、三千万人以上の第二次世界大戦の死者に対して、三度戦争を起こさせない、そして三度原爆投下を許さない、固い決意を申し述べ、本日の追悼、並びに不戦の誓いいたします。